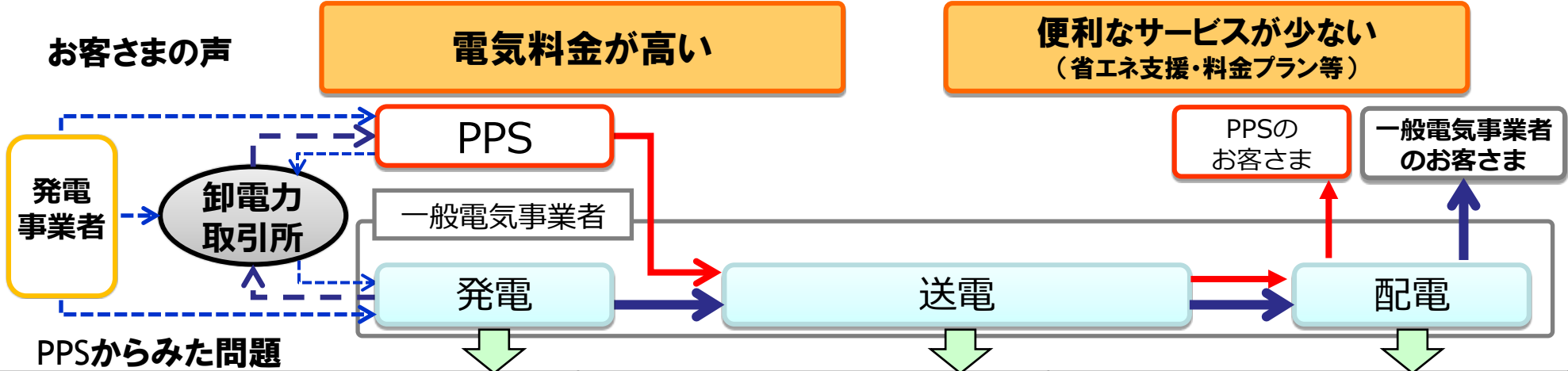


## 規制・制度改革要望

# PPSから見た電気事業の問題



PPSからみた問題	PPSからみた問題	PPSからみた問題
発電(電源確保の問題)	送配電(系統利用の問題)	小売(参入制限の問題)
<p>①発電所建設⇒建設～運用まで長期 環境アセスメントに3年半程度かかるなど、 発電所建設のハードルが高い</p> <p>②取引所からの調達⇒流動性が低い 卸電力取引所における取扱量が少なく、供給力確保には不十分</p> <p>③相対取引⇒限定的な調達環境 発電事業者は一般電気事業者への配慮からPPSへの販売を見送る場合も少なくない</p> <p>④自治体保有電源⇒入札が未活用 公営水力発電のほぼ全て、ごみ発電の大半は一般電気事業者との相対契約</p> <p>⑤国策的な電源⇒利用の選択肢が無い 大型水力や原子力などの国策的な電源を利用する選択肢がない</p>	<p>①系統利用ルール⇒非常に厳しい PPSの同時同量制度は、条件が厳しく、系統安定化への実効性も疑問</p> <p>②系統利用料金⇒高額な料金水準 同時同量変動範囲を逸脱した際のインバランス料金、および託送料金の水準が非常に高額</p> <p>③系統運用形態⇒透明性が不十分 系統運用に関する情報開示が不十分であり、中立性・公平性の観点に疑問</p>	<p>①自由化範囲⇒範囲が限定的 低圧のお客様への小売は自由化されておらず、新規参入の範囲が限定的</p> <p>②サービス提供環境⇒インフラ未整備 インフラとしてのスマートメータの整備が進んでいない</p> <p>③お客様情報⇒一般電気事業者内に限定 お客様の電気使用量などの情報が一般電気事業者内で閉じており、お客様やPPS等がアクセスできない</p> <p>④部分供給⇒実現できていない お客様からの要望があっても、実現していない</p>

# 規制・制度改革要望に関する項目一覧

発電分野	送配電分野	小売分野
<p><b>①発電所建設</b>  <u>1.PPS等の発電所建設の促進(アセス緩和等)</u></p> <p><b>②取引所からの調達</b>  <u>2.卸電力市場の整備・活性化</u>  <u>3.日本卸電力取引所におけるゼロひも付けルールの廃止</u>  <u>4.卸電力取引所の中立化・法定化</u>  <u>5.卸・IPPの発電余力の活用</u></p> <p><b>③相対取引</b>  <u>6.新規電源設置におけるIPP入札の実施</u></p> <p><b>④自治体保有電源</b>  <u>7.自治体等の公営発電事業における入札の義務化</u></p> <p><b>⑤国策的な電源</b>  <u>8.国策的電源利用のあり方</u>  <u>9.常時バックアップ・部分供給のあり方見直し</u></p>	<p><b>①系統利用ルール</b>  <u>10.同時同量制度の見直し</u>  <u>11.自家発アンシラリーサービス料金の見直し</u></p> <p><b>②系統利用料金</b>  <u>12.インバランス料金の引き下げ</u>  <u>13.託送料金の引き下げ・透明化</u>  <u>14.低圧託送料金制度の創設</u></p> <p><b>③系統運用形態</b>  <u>15.送電における広域的運用の実施</u>  <u>16.情報開示の強化・透明性の向上</u></p>	<p><b>①自由化範囲</b>  <u>17.需要家の選択肢拡大のための小売り自由化範囲の拡大の検討</u></p> <p><b>②サービス提供環境</b>  <u>18.スマートメータの導入促進(電気事業者による導入)</u>  <u>19.スマートメータのインターフェース等の標準化</u>  <u>20.省エネ法におけるピーク対策の積極評価</u></p> <p><b>③お客様情報/営業</b>  <u>21.需要側のピーク対策における供給事業者側の協力</u>  <u>22.需要家群による需給管理の推進</u>  <u>23.24.電気事業者の事業者別排出係数の見直し①、②</u></p> <p><b>④部分供給</b>  <u>25.需要家による再生可能エネルギーの選択肢買う題に向けた部分供給取引の明確化</u>  <u>9.常時バックアップ・部分供給のあり方見直し(再掲)</u></p> <p><b>⑤その他</b>  <u>26.自家発補給契約の見直し</u>  <u>27.特定電気事業制度の見直し</u>  <u>28.マンション高圧一括受電サービスの普及促進に向けた規制の見直し</u></p>

## 主な規制・制度改革要望